



くまもとの家庭教育

こどもの居場所づくりの現場から

令和8年熊本地震は、県内各地に甚大な被害をもたらしました。現在も、まだ断水が続く地域や避難所での生活を余儀なくされている方たちがおられます。そのような中、各地で「被災した子どもたちの居場所づくり」が実施され、子どもたちの心のケア、保護者の負担軽減など日常生活を取り戻すための家庭への大きな支援となっていました。いくつかの取組を紹介します。



【小野部田小】けん玉で遊ぶ子どもたち

【宇城市 小野部田小学校】

- ・「図書館や教室を子どもたちに開放できないか」という教職員の声がきっかけとなり開設。三重県学校支援チームと国際協力N G O「ワールド・ビジョン・ジャパン」が連携して運営。
- ・子どもたちは友だちや先生、スタッフと交流することができ、次第に元気や明るさを取り戻している。
- ・体験活動ボランティア派遣事業（県社会教育課）を活用し、国立阿蘇青少年の家等から講師を派遣してもらい、子どもたちに体験活動を提供した。
- ・読書やカードゲーム、けん玉（オンラインで北海道の講師が協力）等で楽しく活動していた。かき氷等のおやつも子どもたちの楽しみ。

【八代市 旧植柳幼稚園】

- ・認定N P O法人「カタリバ」が運営。地域ボランティア、高校生ボランティアも協力。（Facebook等のS N Sで呼びかけ）
- ・訪問した日は、幼児から高校生まで40名の子どもたちが集まっていた。地域のボランティアの方により音楽の演奏も行われた。
- ・スタッフには、令和2年の熊本豪雨で被災した方もおられ、「恩返し」という思いから協力をされている。
- ・迎えに来られた保護者も、「共働きなのでとても助かっている」とのこと。



【旧植柳幼稚園】みんなでおやつの時間



【みんなのこども部屋】
友だちと楽しく交流する子どもたち

【八代市 みんなのこども部屋 @松高コミュニティセンター】

- ・松高小P T A会長が中心となり活動を開始。保護者、地域ボランティア、高校生ボランティアがスタッフとして運営に協力。立ち上げの際に認定N P O法人「カタリバ」に相談し、運営のノウハウや支援を受ける。
- ・子どもが普段関わらない年齢のはなれた友達とも交流し、子どもの交友関係が広がった。（保護者談）
- ・松高コミュニティセンターが避難所になっており様々な立場の方（地域住民、警察、防災士、他県の応援職員等）と子どもたちが交流できた。

現場の声～運営に携わるスタッフの方々に聞きました～

- 子どもたち同士が同じ場で交流することによって、笑顔が増えてきた。この夏を「つらかった」だけにせずに「楽しかった」という思い出も作ってほしい。
- 子どもの心のケアは後回しにされがちだが、子どもが安心して過ごせる場所があってこそ親（保護者）の安心にもつながる。
- 子どもの居場所づくりを通じて親（保護者）も安心して集まり過ごせる場所も提供していけないか模索中。今後は、親（保護者）の心のケアも重要になってくる。
- このような場を通じ「家族以外の大人たちも守ってくれている（たくさんの人に守られているという安心感）」を子どもたちに持ってもらえたと思う。